

2008年3月19日

株式会社日本医療データセンター

報道関係各位

日本医療データセンター 『JMDC データで読むヘルスケアレポート』 vol. 4

## 40代メタボは家計の敵！ 『積極的支援レベル』、20年間で118万円の「自己負担」医療費

医療データベースの構築・分析及び健康保険組合へのソリューション提供を行う、株式会社日本医療データセンター（東京都千代田区、代表取締役：木村 真也）は、本年4月より開始の「特定健診・保健指導プログラム\*1」に記載されている、保健指導対象者の階層化基準で、40代『積極的支援レベル』に該当する人は、その後の20年間で1人あたり年間医療費はおおよそ395万円、うち自己負担3割分で118万円掛かると試算しました。

\*1 医療保険者が対象者の健診結果のリスク数により、  
3つの階層（情報提供、動機付け支援、積極的支援）にレベル分けをする。

この結果は、日本医療データセンターが契約する健康保険組合に加入する30～50代の健診受診者56,662人のデータを厚生労働省が示す基準\*2で階層化し、レセプトデータで病院受療者の年間医療費を個別に集計。階層集団別の年間医療費の平均値からシミュレーションし、判明しました。

積極的支援レベルとは、腹囲が「男性で85cm以上、女性で90cm以上」又はBMIが「25以上」で、かつ健診結果の項目で基準値を超えているものが、前者で2個以上、後者で3個以上ある場合を示し、肥満と生活習慣病罹患リスクが高い状態の人が該当します。このレベルの人の年間医療費（自己負担3割分）は、40代で4万7490円、50代で7万1219円。これに対して、リスク数の少ない情報提供レベル者の年間医療費は、40代で2万8856円、50代で5万2587円であったことから、健康を保つことが家計に及ぼすダメージも小さく抑えられることが分かりました。

\*2 厚生労働省が示す階層化基準について「Pep! eco-recipe(エコレシピ)vol.10」  
P7「今すぐチェック」に詳しく掲載されています。

### ■階層レベル別 年間医療費(自己負担3割分)

	30代	40代	50代
情報提供レベル	20,473円	28,856円	52,587円
動機付け支援レベル	23,607円	36,817円	62,146円
積極的支援レベル	25,201円	47,490円	71,219円

※分析期間：2006年4月～2007年3月

この分析から、北里大学医学部 佐藤敏彦准教授(公衆衛生学)は、以下のようにコメントしています。

「日頃から健康に留意しておくことが、将来の医療費の節約になることが解析データからも分かります。働きざかりでまだ病気の少ない若い40代、50代でさえこれだけ金額に差が出てしまっています。長期に症状を放置しますと脳疾患や腎疾患などの重症疾患を併発しやすくなりますので健康な人との医療費の差はますます大きくなるでしょう。」

---

---

■本件に関する問い合わせ先

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 担当 小沼・岸村  
メールアドレス:[FAQ@jmdc.co.jp](mailto:FAQ@jmdc.co.jp) (TEL):03-3511-6781 (FAX):03-3511-6782

---

---

■関連情報

メタボリックシンドローム対策レシピ「Pep! eco-recipe(エコレシピ)vol.10」に詳しい情報が掲載されています。

エコレシピの詳細はこちら: <http://www.jmdc.co.jp/eco-recipe>

◇JMDC データで読むヘルスケアレポートとは

株式会社日本医療データセンターが、月1回発表するレポートで、同社独自の技術を用いたJMDC データ\*\*を利用して、リアルな患者のデータから、日本人の健康や疾病の傾向を分析するものです。

\*\*JMDC データ: 株式会社日本医療データセンターが約33万人(2007年11月現在)の健康保険組合加入者から収集した健康診断の情報やレセプト情報を解析したデータ。個人を特定しないよう加工され、時系列での処理が可能のため、治療の経過などを疫学的に検証することが可能。

◇日本医療データセンター( <http://www.jmdc.co.jp/> )

レセプト(診療報酬明細請求書)には、豊富な医療情報が含まれているにもかかわらず、今までは個人情報の問題や、医療機関ごとに異なる用語やフォーマットなどにより、データとして利用することが大変難しい状況でした。2008年4月には、医療制度改革に伴う健康保険法改正により、国内全ての健康保険組合に「医療費削減」を目的とした「組合員の健康増進等」が義務づけられます。

このような背景のなか、国や健康保険組合の施策に対し、改善に繋げるための「検証」というプロセスの必要性から、株式会社日本医療データセンターでは新たなメタボリックシンドローム対策のソリューションを開発。医療機関が健康保険組合に医療費請求時に使用するレセプトから、個人を特定しない医療データ生成・分析を行うことができる、日本初の会社として、健康保険組合および製薬会社などにデータ活用ソリューションを提供しています。